

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第 220 号 (2025. 6. 1)
事務局 川西地区自主防災会

高松市弦打校区の令和 6 年度の防災活動について

香川県防災士会
副会長 向井 盛泰

弦打校区は香東川と本津川の二つの二級河川に挟まれた南北約 5 km、東西約 1.2 km と南北に細長い、人口約 10464 人、5345 世帯（令和 7 年 5 月 1 日現在）の地区です。二つの川の狭い所では約 720m となっており、計画規模の降雨による洪水浸水想定区域は校区の約 3/4、想定最大規模の降雨の場合は、ほぼ全域となっています。また、北は瀬戸内海に面し、南海トラフの最大クラスの地震の津波による浸水も想定されており、水害、地震による大きな被害が想定されています。

防災会議は、コミュニティ協議会防災部会と自主防災会連絡会が合同で毎月開催され、地域の各自主防災会の代表、PTA、キッズクラブ代表、民生委員児童委員協議会代表、校区の特別養護老人ホーム代表、総合ケアセンター代表、防災士などが参加しています。その中でも校区の 15 人の防災士が中心になって防災訓練の案や防災だより、防災冊子の作成など活動を担っています。



平成 16 年台風 23 号被害



香東川と本津川に
挟まれた弦打校区

以下、昨年の主な防災活動をご紹介します。

① 弦打防災〈地震/水害〉発行

令和6年3月に弦打校区の各種ハザードマップを始め、避難行動、防災情報の収集、過去の水害被害等を86ページにまとめた「弦打防災〈地震/水害〉」を発行し、自治会や小学校、介護事業所等での防災学習で活用していただいています。



自治会での防災学習の様子

各自治会の防災学習は令和6年度に14自治会で開催（約400名参加）されました。校区の防災士が講師を務め、南海トラフ地震が発生した場合の校区の危険度や香東川・本津川が氾濫した場合に自治会がどのような状況になるか、また、校区における過去の災害事例等を学び、避難行動や災害への備えについてともに考えました。各自治会で開催することで、高齢者の方も集まりやすく、住民の皆さんの防災に関する意識の高まりが感じられました。

② 放課後つるピー教室 防災学習（7月11日）

放課後子ども教室運営協議会でも防災学習が取り上げられ、夏休み前に開催することで防災に関心を持つきっかけにもなり、夏休みの防災に関する自由研究やポスターに繋がりました。



③ 校区内の福祉避難所の防災訓練に地区の防災士が参加（9月12日）

福祉避難所の代表や防災担当者が毎月の防災部会に参加されており、地区の防災士も施設の防災研修のグループワークに参加して、いざという時に連携できる関係づくりを目指しています。この研修でも「弦打防災〈地震/水害〉」が活用されました。



④ 小学校防災学習（9月13日、10月2日）

これまでも校区の防災士が防災学習を支援してきましたが、令和6年度は全学年で授業参観日に防災士による防災学習を実施しました。

事前に先生方との意見交換会を行い、防災士の皆さんが1年生から6年生まで各学年での学習を計画的に体系化した学習資料を作成しました。さらに授業を行う防災士は各学年に応じた話し方などについて事前に研修会を持ちました。



5年生防災学習
(マイ・タイムラインの作成)

6年	「自助・共助・公助」 ・自助、共助、公助とは。 ・自助が他助に繋がり、公助との連携につながる。 ・自分たちでできる事を考える	【事前準備】 ・自宅の家具類 固定のチェック (備忘)
5年	「水害」 「マイ・タイムラインを作る」 ・マイ・タイムラインとは何か ・ハザードマップで危険箇所を調べる。 ・防災気象情報、避難情報を学ぶ。どのレベルで何をするか。	【事前準備】 ・我が家の水害カルチ (ハザードマップ)
4年	「水害」 「弦打校区ではどんな水害が起きる？」 ・ハザードマップを学び、ハザードマップを使って校区内の特定の場所の危険度を調べる。 ・避難情報を学ぶ。	【事前準備】
3年	「水害」 「弦打の過去の水害を学ぶ」 ・平成16年の台風で弦打ではどんな被害が起きたか。 ・弦打は水害の危険性が高い所。 ・どのような避難行動をすればいいか。	【事前準備】 ・水害から自分のいのちを守ろう
2年	「地震」 「学校の外にいる時に大きな地震がきたらどうする？」 ・通学路では何が危険か。 ・どうやって身を守る。	【事前準備】 ・何がけんワークシート
1年	「地震」 「家の中で身を守る」 ・家にいる時に大きな地震がきたらどうする？ ・台所、居間、子ども部屋、お風呂など、地震の時、何が危険か。どうやって身を守る。	【事前準備】

1～6年生までの計画的な防災学習プログラム

⑤ 防災カフェ（10月20日）

「弦打防災〈地震/水害〉」の発行は校区の団体にも防災活動の広がりを見せ、日本赤十字社香川県支部、弦打校区の防災士の協力により日赤奉仕団弦打分団、つるうち婦人会主催による防災カフェが開催されました。



⑥ 防災キャンプ (11月2日)

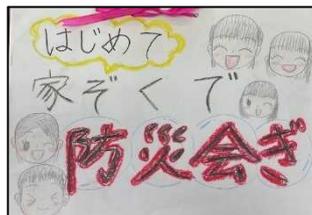
キッズクラブが主催する「キッズ防災キャンプ」は、平成28年から始まり今年で8回目になりました。参加した子どもたちは、災害時に避難所となる弦打小学校体育館で、実際に使用するパーティションやエアベットを組み立てました。その後、今年のゲストである香川大学の皆さんが考えた防災学習ゲーム「防災脱出～災害から命を守れ～」を行いました。このゲームは水害発生時に避難所へ向かうために様々な状況の中でどうやったらいいのかを考えたながら学ぶゲームで、子どもたちはゲームを通じて共助の大切さを学ぶ良い機会となりました。



⑦ 防災訓練 (11月17日)

南海トラフ最大クラスの地震を想定した防災訓練を実施しました。住民は自身や家族並びに近隣住民の安全を確認して各自治会で定めた一次避難場所に避難し、安否確認の後、指定避難所に避難。避難所では避難所の安全確認訓練、情報伝達訓練（トランシーバーを使用した本部と自治会等との通話確認）、避難者の受入訓練（避難者の受付・誘導手順確認）、避難所備蓄品の設置訓練（パーティションやエアベットの設置）、また、部屋モデルを使った家具類の転倒防止対策について説明し、家具の配置の見直しを含めた家具の固定がいかに重要であることを訓練参加者へ喚起しました。

また、昨年初めて、防災部会が主催して子どもたちに夏休みに防災に関する自由研究や作文、ポスターを募集し、応募された多くの素晴らしい作品を防災訓練の場で展示して表彰式を行いました。



⑧ 防災だより第5号の発行（令和7年3月1日）

弦打校区での防災活動報告や、防災に関する知識の向上、情報提供のために「弦打校区防災だより」を発行しています。今回の防災だよりでは「弦打防災〈地震/水害〉」が発行されて、1年になることから、冊子を活用した活動の効果を検証して今後の活動につなげるような内容も掲載されています。



⑨ 校区内の事業所と防災連携協定を締結（11月7日）

弦打校区内の8事業所と弦打校区コミュニティ協議会との間で平時の地域防災活動への参画、連携による共助について香川県庁で協定を締結しました。本年度の防災訓練にも参加していただき、今さらに今後も事業所との協定を推進し、地域防災力の向上に繋げていきたいと考えています。



事務局だより

令和7年6月

梅雨の季節となり体調の維持に神経を使うこととなりますが、防災関係者の皆さんお変わりございませんか？当方からは、かがわ自主ぼう連絡協議会事務局として総会・役員会において「受付」担当をしておりました、玉井豊夫氏が逝去されました。川西チームの元気印の突然の訃報に関係者一同ショックを引きずっている毎日です。

元気な話題としては、約6年間竹林や雑木林を整備してまいりましたが、このたび地元小学校の協力も得て、このほど「かわにしわくわく森林公園」として、開演することとなりました。

市民の憩いの場として、多くの皆様に活用していただければ幸いです。

